

## 生徒会長にインタビュー

# 一人一人が関わる、みんなで作る学校に

本校の生徒会は「SAH」を先導して頑張ってくれています。どのような「エスプリ」を持って生徒会活動をおこなっているのか、今号は生徒会長の新井稀唯さん(3年)に話を聞きました。(編集 教頭)

### 生徒一人一人が主役になれる学校を目指して

—なぜ生徒会長になろうと思ったのですか？

前南のSAHの取組を学校説明会で知り、生徒の力で野球応援やアイス自販機の導入を実現させたことに強く興味を持ちました。それがきっかけとなって、前南の生徒会に入りました。

しかし、1年生の頃は先輩のサポートが中心で、自分から動いて実現できたことが少なく、「もっと学校のためにできることがあったのではないか」という思いが残りました。

だからこそ、「学校のために自分ができることを増やしたい」「生徒会長という立場で覚悟を持って挑戦したい」と考え、生徒会長に立候補しました。



そして何より、「生徒会が学校を動かす」のではなく、「生徒全体で学校づくりを考える学校にしたい」または「生徒一人一人が主役になれる学校にしたい」という思いがありました。

### 「企画実現は過程の積み重ねが必要」と学ぶ

—生徒会長として力を入れたことは？

特に印象に残っているのは、スポーツ大会の運営とBYOD(1人1台端末)の活用拡大です。BYODの取り組みでは、「使ってよいのか分からない」「先生によって対応が違う」といった状況を改善し、ルールを明確化したいと考えました。そのために、生徒へのアンケートを実施し、実際の声を集めながら先生方へ提案を行いました。

活動を通して学んだのは、「実現したい」という思いだけ

では前に進まないということです。“生徒の意見を集める。課題を整理する。ルールを考える。相手を説得する。…”こういった過程を積み重ねて、初めて企画は実現するのだと実感しました。

先生たちへのプレゼンの様子



### みんなの声を聞きながら、一緒に学校づくりをしていきたい

昨年のスポーツ大会の全校円陣



—生徒会活動でのやり甲斐、生徒会活動によって成長したことは？

私が成長したことの一つ目は「自分は多くの人に支えられている」ということに気づけたことです。行事の運営でも生徒会活動でも自分では気づけなかったことを仲間や先生方が補ってくれました。また、私が話したことやしたことに対して、少しでも反応をもらえたときには「ちゃんと見てくれている人がいる」と実感でき励みになりました。私が「会長」として活動できたのは、多くの方が私を信頼してこの役割を任せてきてくれたからです。そのことに気づいたときからは応援してくれている人たちの期待に応えたいという思いが、生徒会活動の原動力となりました。

二つ目は、自分とは違う考え方に触れることで考え方の幅を広げ

られたことです。生徒会になったおかげで、違う場所で新しいことに挑戦している方々に出会う機会がたくさんありました。SAH イグナイトで他校の生徒会の生徒と話をすることで、生徒総会に向けて全校生徒の声を吸い上げるやり方を聞いたときはとても新鮮でした。たくさんの方から得た考え方は、私にとって大きな刺激となっていたので、そんな出会いを大切にしながら活動していました。

## 「反応すること」の大切さ

—前南生に伝えたいことは？

私は、誰か新しいことに挑戦しようとしている時に、「反応すること」を大切にしてほしいと思っています。賛成でも反対でも構いません。「なぜそう思うのか」「何が良いと思うのか」「何が不安なのか」、そうした意見を伝えてほしいです。「こうだったらいいなあ」「ちょっと気になること」など、小さな声でも学校を変えるきっかけになるからです。

私たち生徒会本部役員は、「自分たちのしたいことを実現する！」というよりも前南生の声を聞きながら一緒に学校づくりをしていきたいと考えています。だからこそ、呼びかけに対する反応や意見を伝えてほしいです。現在は「デジタル目安箱」もあるので、ぜひ活用してみてください！



生徒総会。生徒会本部役員が生徒達で実現したもののについての思いや運用ルールを説明している



## “思い”や“精神”が受け継がれていくことが大切

—どんな学校にしたいですか？

私が目指してきたのは、「みんなで作る学校」です。生徒会だけが学校を動かすのではなく、生徒一人ひとりが学校づくりに関わる学校です。

そして、誰かが実現したことを「それで終わり」にしないことも大切だと思っています。先輩方の提案で実現してきた「中庭の活用・活性化」や身だしなみのセルフチェックなどの環境をただまねして維持するのではなく、そこに込められた「こんな学校にしたい！」という精神を受け継いでいくことが大切だと思っています。それぞれの代でより良い環境を作り、次の世代へ思いをつないでいく責任を果たせる学校にしていきたいです。

## “前南”の魅力をたくさん伝えたい

—残りの任期でやりたいこと

一番力を入れたいことは、「後輩への引き継ぎ」です。先輩や先生方が代を重ねて守ってきたこの環境が、次の世代でもっとレベルアップできるように、今ある「思い」を形として残して伝えていきたいです。

また、夏休み中（8/20 実施予定）の「学校説明会」が生徒会最後の仕事になるので、生徒会長として前南の魅力をたくさん伝えられるように工夫を凝らしたいです。

今年度から SAH+事業が県内の高校へ拡大し、SAH というワードが至るところで使われているのを感じます。SAH の流れが県内に浸透してきている中で「自ら考え、判断し、行動する」という意味について多くの教育関係者が日々考えています。私自身も日々考えていますが、実際に生徒がやっている姿を見てそれに携わっていると、これが「エージェンシー」なのかと強い衝撃と感動があります。

生徒会長の新井さんは学校をよりよくしようと考え、生徒のために日々活躍しています。考え方や行動すべてに「エージェンシー」を感じます。前南のみならず社会に貢献できる人たちが前南にいと実感します。今後の活躍が楽しみです！（生徒会チーフ 横島先生）

【校長より】中国、唐の時代に編纂された李世民（太宗）の言行録である『貞観政要』で、「創業と守成ではどちらが難しいか」という問答があります。房玄齡は「創業の困難」を説き、魏徴は「守成の困難」を説きます。それを聞いた上で、李世民は「創業が過去となった今は、守成の努力を」と説きます。前橋南高校は、SAH の指定校となり、さまざまな活動を実現させてきています。（創業）しかし、その活動は当たり前のことではありません。SAH 指定当初からの「エスプリ」を「後輩たちへ引き継ぎ」、継続していくこと（守成）が大切であると私も思います。「みんなで作る学校」のため、新井生徒会長の残り任期の活躍と次期生徒会の活躍を期待しています。

（中澤政幸）